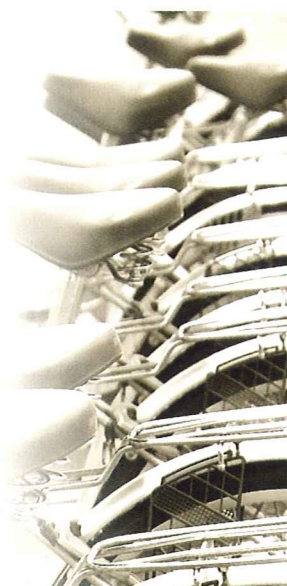


自転車部の
歩み



40連覇おめでとう

昭和 45年指導 佐藤 豊

驚きの大偉業を成し遂げましたね。ギネス記録ではないかな。昭和45年中尾校長先生より自転車競技をやってみないかと言われ、挑戦することになりました。自転車競技についての知識もなく、手探りの挑戦でした。運転免許の試験と同じく筆記試験と実技の総合点で順位が決まる競技です。

まず困ったのが子供用の自転車がなかったことです。地域より借りることにしましたが2台しかなく交代での練習でした。S字コースやクラシク、長さ約10mで幅10cmの板を10秒あけて渡る、ジグザグコースなど色々あります。次には、そのコースを運動場に時間をかけて石灰で作っても、一度の雨で消えてしまうのに閉口しました。現在のようにビニールのひもやテープがなかったので、荒縄を釘で打ち付けてコースを作りました。手信号は、体育館の鏡を使いすばやく正確に、大きな声を出させて練習させました。

当時西原村には1台の信号機もなかったので、経験もない交差点通行がうまくできなかったので、大津署の協力で信号装置を借り1回だけ練習しましたが、不安だったことを今でも覚えています。筆記試験の問題もコピー機はなく、ガリ版できり、手刷りで3通りぐらい準備し、徹底的に鍛えました。

さあ地区大会です。会場は第一回優勝校菊陽北小。選手は緒方伸行、小城一也、中村誠宏、秋吉高俊、津留英四郎の5名、5、6年混合チームです。混合チームにしたのは、来年度につなげようと思ったからです。子ども達は初出場なので緊張気味でしたが「練習通りやれ」と体育館へ送り込む。まずは筆記試験。30分後体育館より出てきた皆の表情にはやっただけという達成感がうかがえこれはいけるぞと感じました。

次は運動場と体育館に設けられたコースでの実技試験です。5名は練習通り実力を発揮しました。見学の保護者から手信号の「手の動きがうね、声も良く出ているね。」との声が聞かれました。成績は団体、「優勝河原小」との発表を聞き、本当かなと耳を疑わんばかりに驚き、胸にこみ上げてくるものがありました。個人賞は中村誠宏1位、緒方伸行2位と河原小が上位を独占しました。ここに河原小の伝統の第一歩が印されたことになったのです。この快挙にPTAから2台、教育委員会より3台自転車揃えてもらえることになりました。

県大会は旧熊本市立体育館で行われました。体育館の大きさと観客の多さに驚いたのか雰囲気にもまれ、実力を発揮できずに12位ぐらいだったと記憶しています。でも子ども達にとっては貴重な経験になり、それをよく後輩に繋げて行きましたね。

新聞で河原小の優勝の記事は何度か見ましたが、40連覇もしているとは知りませんでした。選手の皆さんや指導される先生には大変なブッシュヤーでしたね。よくそのブッシュヤーを乗り越えて40年間も勝ち続けることの大変さは並大抵なことではなかったと思います。これこそ奇跡ではないでしょうか。でもどんな記録でもいつかは破られるものです。何事においても自分たちの実力を発揮し破れたのであれば納得できると思います。

これからも、このよき伝統を他の教育活動にも広げ、河原小が発展していくことを期待し見守って行きたいと思っています。

40連覇本当におめでとう。

地域の教育力で連覇

昭和 49 ～ 54年指導 増永孝徳

昭和49年4月(昭和44年)赴任、5年生を受け持ち、6年間自転車大会に携わりました。赴任して早々の職員会議で自転車の指導をすることが決まりました。中学校からの赴任で自転車競技がどんなものか全く認識しておらず、自転車乗りを楽しむぐらいの気軽さで引受けたようです。

大津署管内の大会が近づくにつれ競技の内容が少し分り、学科試験もある大変な競技でした。幸い先輩の中西先生が6年担任で一緒に指導してもらい大変助けられました。しかし、翌年、中西先生は山西小に転出されました。それから数年は山西小と大津署管内で熾烈な一位、二位争いを続けることになりました。特に我が子が山西小の代表で出場した時はライバル意識も強く僅差で連覇することが出来、ほっとした気持ちになったことをよく覚えています。その時に学科試験の重要性をよく知らされました。

当時は、ソフトボールが盛んで夕方まで熱の入った練習をしていました。また、陸上や水泳の練習も熱が入り、今思うと子供たちはよく耐えてがんばったなあと思います。少人数で大変な苦勞をしていたらうと感謝の気持ちでいっぱいです。

全く知らなかった自転車の交通安全乗り方大会で11連覇まで続けて県大会に出場出来たのは、子供の頑張りが一番ですが、保護者、地域の暖かい励ましと支援のおかげです。

改めて河原校区の伝統力ある教育力のすばらしさを感じているものです。連覇を続ける陰には言い表せぬ子供たちの汗と感動があり学校、保護者、地域の苦勞の積み重ねがあったことを忘れてはいません。

これから連覇を続けることは大変な重圧となりますが、すばらしい誇りであり大きな励みとなり目標になると思います。校区挙げてのご支援ご協力に敬意を表し、その一端に関わったことに心から感謝しています。

平成 22年1月吉日